

山形県病院事業中期経営計画の取組状況の外部評価結果について

平成29年11月13日

山形県病院事業局

山形県では、平成27年度から平成32年度の6カ年を実施期間とする「山形県病院事業中期経営計画」を策定し、経常収支の黒字化を達成するため、さらなる収入の増加、費用の節減、業務の効率化を図る「病院事業会計V字回復プロジェクト」を推進してまいりました。

平成28年度の取組みについては、「山形県病院事業中期経営計画点検・評価報告書」として取りまとめ、この内容について、さらに専門的な見地及び県民の視点から客観的な評価を行うため、外部委員による点検・評価を平成29年10月3日に実施いたしました（伊関委員につきましては、日程の都合上、平成29年9月22日に実施いたしました）。

委員からは、医療の質の向上、県民から信頼される病院運営及び経営の健全化の推進などの視点から貴重な意見や提言をいただきました。その主なものは下記のとおりです。

いただいた御意見を参考として、今後とも一層の経営改善に努めてまいります。

1 外部評価委員

氏名	団体・職名
吉岡 信弥	山形県医師会常任理事
是川 晴彦	山形大学人文社会科学部副学部長
伊関 友伸	城西大学経営学部教授
野口比呂美	特定非営利活動法人やまがた育児サークルランド代表
尾形 吉則	公認会計士尾形吉則事務所

2 主な意見等

○是川委員

- ・当然、経営基盤の強化は大切であるし、一方で時代が求める医療ニーズというのがどれほどの採算性になるかという問題もある。この二つをどのように両立させていくかがポイントとなる。
- ・収益性ばかりに注目してしまうと、診療単価の高い患者を囲い込もうとなってしまう、県立病院の趣旨としては好ましくない。このあたりが本来のビジネスとは異なるところである。
- ・民間では提供しにくい高度な医療やドクターヘリなどの救急への対応などを着実に推進していつてもらいたい。

- ・どうしても赤字という点に着目してしまうが、採算性が高くなくとも「県民に重要な医療サービスを提供している」というところを県民にうまく説明をして、理解していただくことが重要であると思う。
- ・中央病院、新庄病院は入院収益が外来収益の2倍以上となっているが、河北病院は1.7倍程度。このあたりが課題かと思う。ただ、外来の単価は河北病院では頑張っており、緩和ケアや地域包括ケアを着実に進めていければと思う。

○野口委員

- ・中央病院の院内保育所を見学させてもらった。若い人に働いてもらうためには、情報発信や保育という取組みは非常に重要。
- ・中央病院のD P C II群への復帰は大きく評価して良いことだと思う。
- ・新庄病院については、新庄市民と話をした際に、とても期待をしているようだった。地域に密着した形で、是非推進して行ってもらいたい。
- ・河北病院は、地域の中で支持される取組みをする必要があると思う。
- ・こころの医療センターは、保育をしている人間として、非常に期待している。
- ・人口減少社会となっていくが、Iターン・Uターンをする者や若者にとって、病院はとても重要。地域の中心となって、県民の暮らしを守るということを忘れずに今後もお願いしたい。

○吉岡委員

- ・県立病院の場合、民間とは違い、儲けにつながらなくとも県民のためにできる医療を提供しなければならない。あえて赤字になるようなこともしていかなければならない。このようなことをしているから赤字でも仕方ないと言えるような状況にしたいと医者立場から考える。
- ・県立病院というだけでなく、医療圏として大きな枠組みとして捉えてはどうかと前から考えている。例えば西村山圏であれば、河北病院の周りにも苦勞している市立病院などが存在しており、それらが手を取り合っていけばより良い医療が提供できるのではないかな。

○尾形委員

- ・前年度の計画に対する達成率は決して低くないので、改善を進めていけば、将来的によくなると思う。
- ・財務の観点からすれば、資金不足が非常に重大であり、おそらく資金ショートしないような形で予算が組まれているのではないかなと思う。一般会計からの繰り入れについて、ルールに則って行われているとは思いますが、何らかの方法で手を入れていかなければならないのではないかな。
- ・資本的収入の企業債による収入に比べ、企業債償還金が倍くらいになっている。経常収支が黒字化しても、この部分について検討を進めていかなければ、資金不足は解消されない。

○伊関委員

- ・一時借入金40億円を含め手元現金が3.7億円しかないのは、危機的な状況である。現金がないことは、医療提供の投資等に制約が生まれ、病院間の競争に負ける。それは、東北の有力病院との医師の争奪戦に負けることにつながる。
- ・病院には、地域の主要産業という面がある。雇用を生み、食材などの消費をする大きな産業という側面があり、病院としての競争力を維持するために、厳しい資金状況を早急に解消しなければならない。
- ・県本体から枠外での臨時の支援について、早急に検討すべきである。少なくとも一時借入金の解消のため、単年度10億円～15億円を3か年程度支援を受ける必要がある。手元現金が10億円～20億円ないと病院運営できない。
- ・県立病院は、決して手を抜いているわけではない。中央病院によるDPCⅡ群への復帰など、各県立病院はちゃんとした医療をやっている。厳しい資金状況に陥っているのは、何らかの構造的な問題があると考える。
- ・各病院で専門性を高め、医療の質を上げるため、認定看護師など必要な人的投資を推進すること。特に、認知症ケア加算1は、早急に取得すること。
- ・中央病院は、DPCⅡ群へ復帰したのはすごいことだと思う。さらに、総合入院体制加算2を目指すべき。施設基準の届出状況から、人に対する投資が不足しているのではないか。全国の同規模病院と比較分析することは非常に意味がある。
- ・新庄病院は、新病院をローコストで建設すること。ECI方式により、デザインや構造は出来るだけシンプルにしてはどうか。新病院の建設は、地域の産業振興の観点から、独立採算の枠外として県からの財政支援を求めるべき。
- ・河北病院は、経営改善策として、診療報酬加算の更なる取得のほか、重度の障がい者等を受入れる障がい者等病床を導入することを検討してはどうか。エリア的にも西・北村山地域にはない病床だ。秋田県の横手市立大森病院を視察してはどうか。
- ・こころの医療センターは、医療提供の質の観点から、長期入院をさせないように、平均在院日数は100日を切るようにすべき。新庄病院とこころの医療センターのフェイスブックを見ている。丁寧に情報発信しており、県立の精神病院では全国的にも例のない取り組みだと評価している。

以上